

「幸せな生活を支える税金」

名古屋市立大曾根中学校3年 宮本 莉瑠

私の家は母子家庭なので母と私の二人暮らしです。私は中学三年生で、働いているのは母だけなので一般的な家庭と比べると少し貧しいかもしれません。ですが、毎日三食お腹いっぱい食べることもできて、学校に行って授業を受け友達と楽しく学校生活を送ることができています。今、私は毎日とても幸せな気持ちで過ごしていますが、なぜ母子家庭の私が父親のいる家庭と同様に何不自由なく生活ができるのか疑問に思ったことがあります。そこで私は母に家のお金の問題について思いきって聞いてみることにしました。

話を聞いていくと、私の生活は税金によって支えられていることがわかりました。私が学校に行くためにはたくさんのお金がかかると思います。しかし、市からの税金の一部が使われている就学援助をうけ、今のように学校へ行けているのだと母が教えてくれました。他にも、税金によってがんの検診や予防接種が無料になったりなど、日々の健康面でも支えられているということがわかりました。

また、私は母子家庭や父子家庭の子供たちが集まる学習会に参加しています。そこでは中学生・高校生が大人のサポーターさんに勉強を教えてもらったり、みんなで楽しく遊んだりしています。私はそこで、私と同じような環境で育った友達ができ、今まで怖くて誰にも話すことのできなかつた母子家庭になる前の話をサポーターさんやそこでできた友達に打ち明けることができました。共感してくれる人がいて、私は「私だけではなかったんだ。」を自分の過去の経験としっかり向きあうことができました。そんな私を安心させてくれる唯一の場所に私は無料で参加しています。学習会の会場では、軽食もできるし、トランプなどのカードゲームもあるし、会場を借りるためのお金も必要だと思いました。不思議に思いサポーターさんに聞いてみると、これにも税金の一部が使われていることがわかりました。

私はこれまで当たり前のように健康で過ごしたり、毎日学校に行けたり、ましてや、自分のつらかった過去を受け入れてくれた場所も税金で支えられていることを知りました。これまで、自分とは無縁だと思っていた税金と、こんなにも関わっていたのかと驚きました。私には自分と似たような環境で育ってきて、悩みを抱えている子供たちを一人でも多く助けるという夢があります。その夢を叶えるためにも、一人一人が税金を納めることが大切なのだわかりました。私が働いて稼げるようになったら、恩を返す気持ちで税金を納めたいと思いました。